

アーキテクト・ガーデン 2015 基調講演  
「受賞作品を語る + 建築から街へ」



アーキテクト  
ガーデン  
実行委員会  
小林 光義

■ 今年のアーキテクト・ガーデン（以下AG）は、1999年の開始から15年、活動範囲は21世紀の歩みと共に関東甲信越支部全域に広がりました。今年度も講演会・シンポジウムで16、展示・ワークショップで3、街歩き・見学会で6と多くのイベントが各地で開催されました。

去る6月12日には、AGキックオフセミナーとしてJIA 新人賞2014受賞者によるトーク「JIAこれからまちと建築」が開催されました。原田真宏氏、原田麻魚氏（MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO）と永山祐子氏（有限会社永山祐子建築設計）の3氏をお迎えし、各々の受賞作品ShoreHouseと豊島横尾館についてお話をいただき、その後、新会員や参加者を交えてのディスカッションが行われました。

■ 基調講演「受賞作品を語る + 建築から街へ」

7月17日、台風上陸との予報の影響も無く59名の参加者があり、会場はとも和やかな雰囲気の中でアーキテクトガーデンメインセミナーが開催されました。今年のテーマは「受賞作品を語る + 建築から街へ」と題し、JIA 建築大賞2014受賞者工藤和美氏、堀場弘氏（シーラカンスK&H）両氏をモデレーターに、JIA 新人賞2013受賞者である長田直之氏（ICU一級建築士事務所）、矢板久明氏、矢板直子氏（矢板建築設計研究所）3氏を講演者に迎え、受賞作品の解説後、テーマについてディスカッションを行うという企画でした。

■ 山鹿市立山鹿小学校

まず、モデレーターの工藤氏、堀場氏による『山鹿市立山鹿小学校～幸せなローカルティ～』からプレゼンテーショ

ンが始まりました。

学校をつくる際、今の時代の社会的な背景として、「児童の安全性は社会全体で関わる事が不可欠であり、学校と地域社会との連携が必要な時代になってきたこと」「学校建築は公共施設の37%を占めることから社会ストックとしてとても大切であり、様々な場面で開くことと守ることの両立をするという役割を担っている事こと」があげられた。その解決策としてこのプロジェクトは、「地域からとても愛され長い歴史を有する文化『山鹿千人灯笼祭り』の会場にもなっていたこの小学校は、もともと地域と共に育つ学校という土壌があり、『学びの街道』という地域との関わりを整理した道を通すこと」をコンセプトとして提案を行ったという説明がありました。

完成後、実際にここで行われた山鹿千人灯笼祭りでは、この小学校の中心を横断する『学びの街道』を当たり前のように千人の女性が整列している様子が見られ、これまでとは全く違うけれど、とても趣があるものに見えたようです。また、大規模木造を地場の木と大工で実現させるための策として南京玉簾構造が紹介され、その具現化までのプロセスもスライドを交えて解説していただきました。

■ 飽きない家

現在、長田直之氏ご自身が一番の関心ごとである隣接性や、繋がりやの複数性という関係性を3つの視点『ここそこあそこ』という表現で解説し、『YO』では更に『ここそこあそこ』という関係性を住宅に持込み、『3度』づつ異なる4つのアクシスによりプランを平面的に展開していった動的な設計プロセスについての解説がありました。



基調講演



講演者 シーラカンス K&H 堀場弘氏、工藤和美氏

また、この3つの関係性は『今あるときあつとき』と置き換えることもでき、姫路市立美術館での米田知子写真展会場構成の際に作家の作風に見出し、『ここそこあそこ』という空間とのインスタレーションを行ったことでしか体感しえない場の設営についての解説もありました。

■ PATIO

矢板久明氏、矢板直子氏の『PATIO』では、ルイス・カーンの『Room』という感覚を実体験と共に解説されました。中庭のある住宅という単調で閉鎖的になりがちな要求に対し、綿密な検討を重ね、閉じながら建築をいかに開いたのかについて、そのプロセスの解説がありました。更に『Room』という感覚を都市に置き換え、「公共の『Room』は周りの建物のオーナーが壁を提供し空が天井になり、通りは共有の財産となる。建築は部屋となって通りを囲い込み、豊かに演出する。これが建築の役割である」と、今回のメインセミナーのテーマである『建築から街へ』のひとつの解答がなされました。

■ 作品の解説を終えて

これらは皆、共通に示唆的であると感じました。山鹿小学校では『学びの街道』が当たり前のように使われ、『YO』では『3度』の変化が生む『ここそこあそこ』空間、『PATIO』では塀を用いずプライバシーを確保した無窓壁が与える威圧感を抑えた街並みと図られた調和、それぞれの考え方とそこから導かれた造形・空間が予定調和のような形態に昇華してそれが建築の個性となっています。その理由は敷地固有の価値を見出し、そこに潜むオーダーを発見することで発明にも似た建築を導き出しているからであり、それら建築の特徴はある種の素直さ故、示唆的な印象を与えているのではないのでしょうか。

■ 「建築から街へ」パネルディスカッション

「住宅から都市スケールまで幅広い話がありましたが、そこから今回のテーマ『建築から街へ』について進めて行きましょう」という工藤氏からの投げかけを受けて、長田氏から

「アグリーメントがどう生まれるのかがポイントである」という発言があり、矢板氏からは、「生活者の視点がとても大事で、住民目線から街への愛着が建築に現れたときに多くのアグリーメントが生まれる」との意見が交わされました。

都市に道を通すことはとても大変な事で、山鹿のように建築であるが故に道をつくる事ができた訳ですが、建築が大きいほど街に与える影響は大きく、だからこそ得なければならないアグリーメントも大きくなるのだと、そして土地固有の潜在的な価値にこそ新しいアグリーメントが生まれるのだと感じました。

■ 新国立競技場問題について

最後に、今回のテーマ『建築から街へ』に照らし合わせ新国立競技場の問題をどう考えるのかという会場からの質問がありました。「そもそもプログラミングに問題があり発注者が不在であった」「事業全体の8割を占める事業構想がこれまでの議論できちんとなされたのか」「誰がどう設計するかは後の2割の事」「設計ではなくそれ以前に問題がある」「国や党の政策なら大丈夫ではなく民衆や専門家が関わることが大切」「日本はこれまで決定したら突き進むという風潮だったがこれからはあらかじめ途中で見直すというプロセスを組み入れておく必要がある」等々の回答がありました。

共通の意見としては、現段階の設計云々ではなくそれ以前に問題があるというものでした。計画見直しという政府決定がされましたが、これは大きな民意が突き動かした証しであり、この事がいい教訓になればいいと締めくくられました。

そして「ダメで良かったね」ではなく、この事は我々に課せられた問題でもあると認識させられた次第です。

テーマ『受賞作品を語る + 建築から街へ』のメインセミナーは、3度のいずれから総合設計、そして新国立競技場について、詳細から広範囲にわたり土地と建築と街の関係性について、有意義な意見交換が行われたことをここに報告いたします。



講演者 矢板建築設計研究所 矢板久明氏、矢板直子氏 / ICU一級建築士事務所 長田直之氏



懇話会

JIA 新人賞 2014 受賞者トーク  
「JIA これから まちとけんちく」



金曜の会  
部会長

稲垣 雅子

■アーキテクト・ガーデンと金曜の会

6月12日の「金曜の会トークイベント」は、2015年アーキテクト・ガーデンと連動するかたちで「JIA 新人賞 2014 受賞者トーク」を開催しました。「金曜の会」が関東甲信越支部の部会として承認されたこともあり、「アーキテクト・ガーデン 2015」キックオフイベントとなるこの日が、月例の「金曜の会」開催予定日と重なりましたので、アーキテクト・ガーデンの一環として今回のコラボレーションが実現した次第です。

■JIA 新人賞 2014 受賞者トーク

2015年のアーキテクト・ガーデンは「これから」のまちを意識して、JIAの若手に焦点をあてていきたい、ということから、キックオフイベントとしては「新人の集い」からそのまま「新人賞受賞者トーク」へ、という流れになりました。「JIA 新人+新人賞受賞者+JIA 会員」に加えて、「金曜の会」のトークイベントは毎回、一般市民の方が多く参加されるので、建築家やJIAの多彩な活動を広く一般市民に対して情報発信することを目的とした「アーキテクト・ガーデン」にふさわしいイベントとなりました。

トークイベントについては、2014年度の新人賞受賞者である原田真宏氏、原田麻魚氏、永山祐子氏の3氏をお迎えし、「未来」に焦点をあて、受賞作品の解説と共に、これからの建築家の役割、JIAの役割についてのお話をそれぞれにいただき、JIA 新会員をはじめとする参加者とのディスカッションの場を設けました。

従来の「金曜の会」よりも早い、18時の開始となったため参加者数が懸念されましたが、当日は40名を超える参加があり大変盛況でした。

■原田真宏氏、原田麻魚氏のトーク

原田氏にとっての建築とは、空間の構成体であると同時に存在の構築体でもある、とのこと。空間としての威力と構築体としての合理性を同時に解決し、調和させるために

ジオメトリーを有効なツールとして用いているとのことでした。それは「Shore House」のような不整形な敷地においても実践されています。

まちづくりやJIAの活動を通して考えられたことは、建物の用途は変わっても物としての価値が認められるなら、建築は都市としての資産となるのでは？行政の中にも入って信頼され役割を果たせるなら、総合的に人間の幸せを考えるような提案で内側から変えていくこともできるのではないだろうか、というお話をされました。

■永山祐子氏のトーク

受賞作の「豊島横尾館」に関して、たくさんのスライドを見ながらお話を伺いました。リノベーションなので、集落に溶け込むような美術館でありながら、しかもアイコンとしての立ち位置を失わないよう留意されたとのこと。また横尾忠則氏のインスタレーションによる極彩色の庭の赤を消すための赤いガラスは、日常と非日常、生と死を分けるフィルターとして設置したとのこと。

リノベーションを主としたまちづくりについて、建物の価値とは物の価値ではなく、意味の価値、それがそこにあった価値だと話されました。物のリノベーションではなく、意味のリノベーションすなわち、物そのものの再現ではなく物の意味を再発見し、新しいストーリーを生み出し作り変えていくことが永山さんの考えるリノベーションとのことでした。

終了後はJIA 新会員、一般市民の方も交えて、懇親会で活発な意見交換がされました。



JIA 新会員、一般市民も多く参加

原田真宏氏、原田麻魚氏と永山祐子氏

目黒地域会

事務局長：木村 文夫



■講演と見学会 / 第4回 JIA 目黒街かどトーク  
「コンバージョン設計担当者が語る目黒区総合庁舎」

目黒地域会では、地域住民との交流を図る目的で地域文化にかかわる様々なテーマで「JIA 目黒街かどトーク」を開催しています。今回は第4回目、2015アーキテクトガーデン参加プログラムを兼ね、6月3日に地域会のお膝元である目黒区総合庁舎にて開催されました。共催頂いた目黒区の青木区長の挨拶に続き、村野藤吾の設計による旧千代田生命本社を区庁舎として再生させるための「コンバージョン設計」を担当された安井建築設計事務所代表佐野吉彦氏に登壇頂き、設計に至る経緯や村野建築を如何に解釈したかなどについてお話頂きました。

講演後、実際に設計監理をされた安井事務所の方のご案内で、庁舎や議事堂内部、外部テラスや庭園を巡り、短工期における耐震改修の方法や文化遺産としての村野作品を尊重しながら公共建築としての安全を担保するために改良した点など伺いました。個性的な民間建築を解体せず改修し、区役所として見事に再生させたこの建物は、21世紀の建築づくりのモデルであり、目黒区民が誇れる目黒の代表的な建築であると言えます。



佐野社長の講演風景

再生させたこの建物は、21世紀の建築づくりのモデルであり、目黒区民が誇れる目黒の代表的な建築であると言えます。

（株）タオアーキテクト

総務委員会

執筆者：宮地 洋樹



■新会員の集い 2015

「新会員の集い」は入会3年目までの新会員を対象としたJIA活動のオリエンテーション企画です。毎年、JIA 会長、関東甲信越支部長等によるガイダンス及び作品のスライドショーを交えた新会員の自己紹介を行っています。

本年のガイダンスでは芦原会長より公益社団法人としてのJIAの意義から登録建築家制度の将来像まで幅広く説明いただき、上浪支部長からは近年の東京三会での取り組みと成果についても紹介がありました。

また建築家会館戸田支配人からケンバイ保険に関する詳しい案内をいただく等、参加された新会員の皆様にとって充実した内容になったと思います。「新会員の集い」の参加によりJIA 全国大会への参加費の助成も得られますので、次回はさらに多くの新会員の参加をお待ちしています。



新会員の集い2015

参加人数 新会員：6名  
ゲスト新会員：2名（東北支部より）、  
会長、支部長、建築家会館支配人、支部総務委員他8名

（株）大宇根建築設計事務所

住宅部会

部会長：飯沼 竹一



■文化サロン～「自身の粹」Vol.2

ゲスト：野田晴彦（作曲家・笛演奏家）+ 赤星ゆり（ピアニスト）  
コーディネーター：大川宗治（一級建築士事務所 OM-1）

この文化サロンは、文化、芸術、職人の方を招いて心気や姿勢、こだわりをテーマにその方自身の話を伺い、ワイン片手に語らうという趣旨です。野田さんは数々の舞台音楽やCMソングなどを作曲提供してきましたが、世界の民族笛に魅せられ、40歳過ぎてから笛演奏者としても活躍されている音楽家です。そのバイタリティーは朗らかな風貌からは分かりませんが、音楽や興味あることには我が道を行くと言った強い信念を感じました。サンポーニヤやパーウ、ウィスルなど今まで知らなかった世界各国の笛を吹きながら、自作の曲やその国の音楽などを解説してライブ演奏していただきました。一緒に活動する赤星さんもピアニストとして、野田さんとのセッションを楽しみながら繊細に調和させた演奏をされていました。様々な笛とミニマムなピアノの音とのハーモニーはとても心地が良く、ワインを飲みながら静かで穏やかな時間が過ぎていきました。世界の笛に合わせて6カ国の様々なワインが用意され、演奏後には賑やかな懇親会になりました。（アトリエ24）



左：ライブ演奏の様子

住宅部会

執筆者：湯浅 剛



■OZONE セミナー・JIA 建築家と考える暮らしと住まい  
「暑い夏を涼しく過ごすために  
～少ないエネルギーでも気持ちよく暮らせる住まい～」

講師：米田雅夫/小山将史 コーディネーター：湯浅剛

まずコーディネーターの湯浅から、家庭で使うエネルギー消費の割合や、一次エネルギー、省エネ住宅の基本的な考え方について説明しました。次に講師の小山氏は、夏の「空間構成」と、冬の「断面構成」を軸に、日本の伝統的な建築と札幌の住宅実例を交えて、断熱や排熱（通気）、通風、開口部の熱損失対策などについて紹介しました。米田氏は「あきらめない」というテーマで、地域の気温や風のデータと、群馬の住宅実例、京都の町家を紹介しながら、エアコンに頼る前に考えておきたい「日射遮蔽や、通風（高窓・温度差による空気の流れ）」について説明しました。最後に、敷地や近隣の状況によって暑さ対策が変わること、湿度の高い日本特有の夏の不快さには調湿効果のある木材や自然素材の活用が効果的であることを補足して、話をまとめました。質問の時間が少し短くなりましたが、計12名の方に参加して頂き、アンケートも好印象でした。（アトリエ6曜舎）



O613-OZONEセミナー風景



住宅部会

市民住宅講座WG：宮島 亨



■ LIXIL SUMAI セミナー PART21 第3回セミナー  
「温熱環境改善のススメ」～省エネで快適に過ごせる住まいに～

6月13日(土)西新宿のLIXIL ショールーム東京において「温熱環境改善のススメ」～省エネで快適に過ごせる住まいに～を講師：寺山美、郡山毅 コーディネーター：宮島亨で行いました。まず「省エネ」「快適」という二つの言葉について改めて考える事から始めました。寺山さんからは現状の欧米と日本のエネルギー事情から紐解いて話を頂きました。郡山さんからは住まいの快適について考える上で、夏季に多湿、冬季に低温になる日本の気候や文化という側面から話を始めて頂きました。その上でリノベーションの実例を紹介して頂きました。

これからのリノベーションについてはライフスタイルの変化に対応する事だけでなく、建物の性能をあげる事を一緒に考えていくことが大切です。インターネットで検索すれば沢山の情報を得る事ができますが、建て主として正しい知識を持ち、時代の雰囲気や流行に流されるのではなく、自分自身で考えて出来る事からはじめよう、と最後にお話して終了となりました。(株)V建築設計室



セミナー風景

建築家写真倶楽部

部長：藤本 幸亮



■「都市はメディアである」-写真家は建築家と都市のたくらみを目撃してきた【建築家写真倶楽部主催講演会】

日時：2015年6月19日 午後6時半～9時/場所：JIA 館1階 建築家倶楽部/講演者：写真家 中川 道夫 対談：兼松 統一郎

写真家中川道夫さんは1969年日本の学生友好訪中団の一員として文化大革命期の上海に入り、紅衛兵の歓迎を受けるなど体験を経て、その後の上海の変化を40年間にわたって取材を続けてきました。それは、一つの事に一途に向かってゆく「人民」が普通の「大衆」に変化してゆく様子を「都市」は露骨に表現していたとします。その後も変貌する歴史的都市を取材し、アレキサンドリアでは、地上は西洋の面影、地下は古代の歴史を構築させる幻想的シーンに巡り合い、アイルランド、ベルファスト、デリではカトリックとプロテスタントの紛争跡が観光資源になっているシーン、台湾では日本統治下の建物が、歴史的遺産として受け入れられ、むしろ旧日本家屋がカフェとして人気を博していました。当日は41名が参加し、120枚に及ぶスライドと写真パネルにての表現、そして兼松統一郎氏との対談も交え、時に写真機材にも話が及びました。次回は中川氏と横浜の街歩きをし、写真撮影会を企画いたします。(株)鎌倉設計工房



当日の対談風景

長野地域会

代表：山口 康彦



■香山壽夫氏と語る会

長野地域会は毎年2月に文化講演会と学生卒業設計コンクールを開催していますが、2012年は前年の東日本大震災を受けて、講演と審査委員長を香山先生にお願ひしました。縁あって、その後先生と地域会との交流が始まりました。今年で3年目になりますが、6月下旬に先生の軽井沢の山荘をお訪ねして草刈りやBBQパーティ、見学会などを行なっています。毎年新しい人が参加しますが、今年は長野地域会と縁の深い出版社と先生の施主のご家族も参加し賑やかな催しとなりました。近年、先生のご著書から大学の試験に出題されることが多いのですが、最新刊『プロフェッショナルとは何か』からの某大学の建築史(?)の試験問題が全員に手渡され、全員頭を抱えながら何十年ぶりのテストに真剣に取り組みました。先生の飾らない気さくなお人柄に触れ、建築に限らない様々な分野の興味深いお話を聞くことのできる貴重な場となっています。今年度はこの他にも、8月に大町で行なわれる木崎夏期大学の講義と、秋の東大本郷の安田講堂を中心とした建築群の見学会が予定されています。



軽井沢のBBQパーティの様子

(株)アービー建築事務所

建築相談委員会

セミナーWG主査：高塚 博志



■アーキテクトガーデン参加セミナー

初夏に入ってから花菖蒲や紫陽花の季節になり例年通りですが、建築相談委員会主催のもので、今回は「建築前(購入前)・建築後(購入後)の法律知識」という題名のセミナーを6月20日にAGC studioにおいて開催しました。

建築相談から少し離れた主題となりましたが、相談委員会の小島建築士と河合弁護士及び小川弁護士に、実例や写真をもとに説明をしていただきました。建築後の瑕疵を中心に、幅広い法律用語及びその意味の概念を説明していただきました。

相談者の方及び建築家はもとより、日頃において建築相談の窓口になってもらっている諸団体の相談員の方々も含めて48名の方に参加いただいたのですが、アンケートの集計からも満足された様子で、セミナーWG全員共にほっと息という心境です。講師の先生方、まことにありがとうございます。



セミナー風景

また、この場をお借りして、セミナー開催にご協力いただきました皆様にも厚く御礼申し上げます。

(有)スリーエス設備計画

杉並地域会

代表：林 美樹



■JIA 杉並土曜学校第1回「空き家の問題点を探る」

JIA 杉並土曜学校も今年で8年目を迎えました。今年の通年テーマは「生き残るまち、杉並」とし、少子高齢化が進む住宅都市として、これからどうしたら暮らしやすく魅力を増やすことができるのかを考えていきたいと思っております。具体的には今や社会問題ともなっている「空き家」を取り上げます。6月20日に開催された第1回では、まずは空き家とは何ぞや、空き家の問題点はどこにあるのか、といったことを総括的に捉えるため、元不動産学会会長も務められた、元日大理工学部教授の三橋博己先生をお招きしました。空き家やその施策の現状等、全体を俯瞰するお話を聞くことが出来、会場からは活発な意見や質問が出されました。「自分も空き家をどうにかしないと行けない」と思い参加した。」という一般市民の方や、「一番困っているのは空き家を所持している人であって、適切な相談窓口を準備すべき」と提言された不動産業界の方など、参加者は延べ30名弱で、当日は杉並区の住宅課、環境課の担当者にもご参加頂きました。第2回、第3回は実際に空き家を活用している若手の実践者にその事例中心にお話し頂くことになっています。



会場風景



三橋先生

(株) Studio PRANA

環境委員会+長野地域会

環境委員会 委員長：寺尾 信子



■「暮らしから始まる住宅・環境デザイン実践セミナー」

2015年6月24日(水)13:00～17:00  
会場：あがのり文化会館(旧松本高等学校本館1-1 教室)

昨年の神宮前での中村拓志氏講演会の趣きから一転、本年は5名の委員が地域に出張する行事でした。12月の群馬地域会との共催講座の経験を踏まえ長野地域会との共催講座が実現、地元の厚い受け入れ体制に支えられ、午前の「松本まち歩き」から始まり充実して楽しい1日でした。36名参加のセミナーは1部：辻充孝氏「暮らしから始まる環境デザイン」、2部：寺尾「実績データを設計実務に活用する」、3部：下崎明久氏、新井優氏「長野の実例と一緒に深読み!!」へ。とりわけ3部でまな板の上の鯉になってくれた下崎氏・新井氏の実例紹介・講師による分析は好評でした。下崎氏の建主さんに参加され、生活実態をその場で推測する「データの深読み」で会場が沸きました。推測には「JIA 環境データシート2015 住宅」を用いました。環境に関する地域の様々なテーマについて、専門家や市民との交流を図り、互いの能力・見識を高め合うことを使命と考え今後も地域会との連携を重視して活動を進めたいと思っております。(株)寺尾三上建築事務所



4名の登壇者と会場参加者との質疑応答の様子。

港地域会

代表：今井 均



■MAS「みんなで考える街と建築の未来」

港地域会では恒例になった街並に関する市民向けセミナーをアークツガーデンの日程に合わせておこなう事と成った。サブテーマとして『街と建築を海外と日本から考える』と題し、パネリストの我々建築家に劣らない会場からの活発な意見交換がみられた。参加者も小中学生から高齢のかたまで幅広く、海外に何らかのかたちで在住された方々のお話など興味深く、活発な発言が数多くみられ、参加者(市民)と建築家が一体となったセミナーの充実感を味わう事が出来た。

セミナーは二時間足らずであるがその後の懇親会(ワンコインパーティー)もセミナーの第二部と捉えてよく、ここでは自然と三々五々、自由に相手をつかまえて、談笑する参加者と建築家のほのぼのとした姿が観られ、こういった風景の萌芽こそ将来の日本の街並を本物にしてゆくものだと感じた。(株)創建築アトリエ



港 MAS セミナー



デザイン部会

部長：山本 想太郎



■デザイン部会主催トークイベント

「アートイベントと建築ー大地の芸術祭」廃校プロジェクト  
新潟県十日町市・津南町で開催される世界最大級のアートイベント「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015」の会期直前となるこのタイミングで、総合ディレクターである北川フラム氏、そして今回の目玉ともなる、廃校をアートスペースに改修する「廃校プロジェクト」を担当する建築家4名(豊田恒行氏、日置拓人氏、山岸純氏、山本想太郎)が登場するトークイベントを開催しました。参加者は60名以上となりました。「大地の芸術祭」の概要とコンセプトについてまず北川氏から説明があり、続いて各建築家のプロジェクト・プレゼンテーション、全員でのトークセッションが行われました。これらのプロジェクトはすべて「大地の芸術祭」(7月26日～9月13日)で見られます。(http://www.echigo-tsumari.jp/)



左より、山本想太郎、北川フラム氏



左より、日置拓人氏、山岸純氏、豊田恒行氏

情報開発部会

部長：天神 良久



■「設計事務所でのBIM利用+FMの取組」-安井建築設計事務所-  
情報開発部会は、部会設立時のCAD・CGなどの利用技術の情報発信から始まり、昨今ではモバイル端末の利用方法、時の先端技術動向等々と調査範囲を拡大しています。今回は「設計事務所でのBIM利用+FMの取組」をテーマに、安井建築設計事務所へ訪問見学させて頂きましたので概要をご報告いたします。

■開催日：2014年7月3日(金)、16時30分～、参加者：18名。  
案内人：安井建築設計事務所・繁戸和幸情報・プレゼンテーション部長。安井建築設計事務所では2007年から本格的にBIMを取り入れ、現在は事務所全体でBIMを利用しています。見学会では、国土交通省のBIM導入プロジェクト「前橋地方合同庁舎」を事例としてご説明頂きました。BIMの用途としては、基本計画・基本設計・実施設計のデザイン検討・設計図書作成で利用され、環境解析(風環境・温熱環境)、干渉チェック、数量拾い等にも活用されていました。最近の事例としては民間オフィスビルの維持管理フェーズ(FM)でのBIM利用も紹介頂き、一同最新技術動向を体験し、質疑応答(BIMはおじさんでも操作できるのか?等々)の時間も頂戴し、盛況な見学会となりました。



見学会の様子

(BIM: Building Information Modeling FM: Facility Management)

《(株)ケー・デー・シー》

千代田地域会

執筆者：遊佐 謙太郎



丸の内・大手町 街と建物の物語り (6月13日開催)

■本年のアーキテクト・ガーデンは、開催場所を再開発や公的空間等の整備が進む都心の丸の内・大手町地区に選定し、当地域会が街を見える際の方法論の基本としている「都市の基層」という観点から、特に土地、建物・まちの形成、都市基盤整備、社会思潮等の変遷や歴史的事件などが展開する「時間軸」に着目し、参加者がそのような観点から想像力をふくらませながら「街と建物の物語」を楽しめるよう企画しました。

■そのため、家康入国前の日比谷入り江や家康入国後の土木工事、各大名屋敷と現在敷地の関係などを概要を整理した江戸期を中心とした資料、またこのエリアの市区改正以後の明治から現在に至る建物や道路・広場等の市街地整備の経緯や概要を、第1期(明治～戦前)、第2期(戦後～昭和末)、第3期(平成～現在)に区分して解説した建築の変遷図や建築写真、現在の再開発のベースとなる公民連携による「まちづくりガイドライン」及び特徴的な事件・小話等を準備し、25名の参加者を迎えて充実した約2時間の丸の内通りを中心としたまち歩きを実施しました。



丸の内・大手町 街と建物の物語り

《三菱地所(株)》

ミケランジェロ会

執筆者：阿部 一寿



■「新宿西口プロムナード・ギャラリー展」

日時：2015年5月23日(土)～6月6日(土) 2週間  
場所：新宿西口プロムナードギャラリー

新宿西口を通る多くの方が眼にできる場所が「新宿西口プロムナードギャラリー」です。ここは「公益財団法人東京都道路整備保全公社」が管理するアート作品の展示スペースで、多くの美術愛好グループが展示の希望を出し、抽選で展示の機会を得ています。「ミケランジェロ会」も毎年希望し無事機会を得てきました。ここにJIA関東甲信越支部会員の「ミケランジェロ会」が絵画(水彩、油彩)、写真、書等の展示を行い、今年は14会員が43作品を展示し建築家協会をアピールしました。風景画が最も多く、ついで人物画などが出品されました。

「ミケランジェロ会」では毎年春、秋にスケッチ会をしていますが、その成果も出されました。昨年秋のスケッチ会では世田谷区の砧公園とそこにある世田谷美術館(設計:内井昭蔵)を訪ねてスケッチを行い、今年の春には代官山の旧朝倉家住宅やヒルサイドテラス(設計:横文彦)などを題材にしてスケッチし、昼に「ミケランジェロ」という当会と同名のカフェの中庭で談笑しました。

《一級建築士事務所(株)みらい》



カフェ「ミケランジェロ」にて

茨城地域会

執筆者：本澤 幸一



■総の国ゆき 建築探訪

茨城地域会ではアーキテクトガーデンの一環として「総の国ゆき建築探訪」と題して茨城県・結城市の史跡などを散策する事業を開催しました。当日は地域会のメンバーを主として12名の参加でしたが天候にも恵まれ古都・結城市を楽しむことができました。散策した結城市は関東でも有数の古い城下町で鎌倉時代より城下町として発展してきた街です。伝統産業の「結城紬」は全国的に有名で国指定重要文化財になっておりま。当日は結城駅前の結城市情報センターを起点に街中をゆっくり散策し、改めて古都・結城を実感しました。途中400年の歴史を持つ酒蔵「結城酒造」では店主が酒蔵やお酒についてのお話を拝聴でき試飲しながら楽しむ時間を過ごすことができました。地域会メンバーが設計に携わった「結城澤屋」では現代的にアレンジした結城紬を拝見でき伝統産業のこれらを垣間見ることができました。

《(有)本澤幸一建築設計室》



結城澤屋



結城酒造

城南地域会

執筆者：松本 裕



■立会川の歴史を辿って

立会川を歩く城南散歩は今回で2回目となり6月13日に区民を募って行った。大田、品川両区には南より多摩川、呑川、立会川、目黒川と4河川があり、立会川を除く3河川は江戸時代から物資の輸送交易に使われていた。この立会川は碑文谷池、清水池を源流と発し、7.4kmを流れて京浜急行立会川駅の先にて河口(現勝島運河)に至る流域面積の小さな河川であり、戦前は小魚、ザリガニ等捕える子供達の長閑な風景の小川であったが、戦災に伴う住宅密集、道路整備等により、現在その大部分は暗渠となつてしまった。当日、立会川駅にて集合。江戸時代、この一帯土佐藩の下屋敷16,901坪を有し、坂本龍馬像、灯明台、旧東海道の立会川に架かる通称涙橋(鈴鈴森への処刑人の家族とは此処迄)、この浜川砲台跡にて河口に面す。この一帯は旧東海道と併せて江戸幕末頃の歴史が濃い。これより上流に向けて歩く。河口から約700mは川面が見られ、近年東京駅周辺の地下水の導水により河川が奇麗になった事によりボラの群が遡上し話題となった。これより先は暗渠となり、大井町駅にかけて素晴らしい緑道が整備されている。大井町駅周辺は戦後からの区画整理が一段落し、これより国道1号線定は無味乾燥な道路が唯一河川であった名残としてS字カーブを描いて緩やかに登り坂となっている。国道1号を越えたと幡ヶ谷商店街緑道となる。中原街道を越えたと河川の名残の立会道路となり車道、桜並木、歩道が整備された閑静な住宅街を緩やかに登って行くとの西小山駅前に到着。これにて解散。立会川は河川の趣きは未無に等しいけども、土木行政の歴史の変遷、車道から極力、緑道公園への転換が計られている事を垣間見られた。

《(有)松本建築設計事務所》

群馬地域会

執筆者：飯井 雅裕



■「たかさき建築めぐり」

高崎の都市アイデンティティを探る「街歩き」を6月20日に開催した。高崎の歴史を語り継ぐ堤克政氏をガイド講師に、中山道に沿って歴史・文化を伝える建築を巡った。江戸時代の古地図を見ながら歩くと、高崎城の築城と共に今の街の骨格が形成されたのが良くわかる。以前は水路と二間幅の道がセットであり、合計幅は4.5m程度。幅狭れず残っている街路スケールは歩いてみると心地好い。国登録有形文化財の豊田屋旅館からスタートし、商家の金澤米穀店などを訪ねた。高崎初の本格鉄筋コンクリート造と言われている聖オーガステン教会は小屋組をシザーストラスで組んだ美しい空間である。茶舗の水村園は奥行き深い商家で、正面の店舗は道路幅で改築されたが、裏には江戸から明治時代にかけて建てられた土蔵蔵や大正時代のレンガ蔵など歴史的建築物群があり、時代の流れと共に材料の選定の多様さが面白い。その他、明治～昭和初期に建てられた建築を中心に視察した。現存する建築は少なくなっているが、そのオーナーが大切に手を加えながら使い続け、文化を伝えてくれている。これからの街そして建築を創造するうえで貴重な体験となった。



豊田屋旅館前にて堤さんの解説を聴く



高崎聖オーガステン教会内部での集合写真

《(株)飯井建築設計事務所》

アーキテクト・ガーデン 2015 建築祭 開催プログラム

- 基調講演
  - ・「受賞作品を語る+建築から街へ」(主催:アーキテクトガーデン実行委員会)
  - JIA 新人賞 2014 受賞者トーク
    - ・「JIA これから まちとけんちく」(主催:金曜の会(共催:アーキテクトガーデン実行委員会、総務委員会))
  - 講演会・シンポジウム
    - ・第24回保存問題東京大会2015(主催:保存問題委員会(同、東京14地域会))
    - ・JIA 目黒黒猫ドトール「コンバージョン設計者が語る目黒区総合庁舎」(主催:目黒地域会)
    - ・文化サロン「自身の轡」Vol.2(主催:住宅部会)
    - ・新会員の集い(主催:総務委員会)
    - ・JIA 建築家と考える暮らしと住まい:暑い夏を涼しく過ごすために~少ないエネルギーでも気持ちよく暮らせる住まい~(主催:住宅部会(共催:リビングデザインセンターOZONE))
    - ・SUMAIセミナーPart21 第3回セミナー温熱環境改善のスズメ~省エネでも快適に過ごせる住まい~(主催:住宅部会)
    - ・「都市はメディアである」写真家は建築家と都市のたくらみを目撃してきた。(主催:建築家写真倶楽部)
    - ・香山壽夫氏と語る会(主催:長野地域会(JIA 長野県クラブ))
    - ・建築前(購入前)・建築後(購入後)の法律知識(主催:建築相談委員会)
    - ・JIA 杉並土曜学校「生きのこる街、杉並-第1回 空き家の問題を探索」(主催:杉並地域会)
    - ・省エネ性能の設計力と実情データ活用力を同時に磨く!!「暮らしから始める住宅・環境デザイン実践セミナー」(主催:環境委員会・長野地域会)
    - ・MAS「みんなで考える街と建築の未来」(主催:港地域会)
    - ・アートイベントと建築「大地の芸術祭」と廃校プロジェクト(主催:デザイン部会(協賛:NPO 建築家教育推進機構))

- ・ JIA 建築家と考える暮らしと住まい:建築家とのリノベーション(リフォーム)~賢く住み続けるために必要なこと~(主催:住宅部会)
- ・長野県の木材で家をつくる。(やれねばならぬ。)(主催:長野地域会)
- ・SUMAIセミナーPart21 第4回セミナーマンションをリノベーションする魅力~マンションって実はとても自由!~(主催:住宅部会)
- 展示・ワークショップ
  - ・第24回東京都学生卒業設計コンクール(主催:学生デザイン実行委員会(後援:国土交通省 協賛:設計事務所有志))
  - ・新宿西口プロムナード・ギャラリー展(主催:ミケランジェロ会)
  - ・世田谷区庁舎ケヤキ広場のこども空間WS(主催:世田谷区庁舎のケヤキ並木が作る広場の風景を愛する会(後援:世田谷区協賛:JIA 世田谷地域会))
  - 街歩き・見学会
    - ・総の国ゆき 建築探訪(主催:茨城地域会)
    - ・千代田景観街歩き「丸の内・大手町 街と建物の物語り」(主催:千代田地域会)
    - ・第11回城南散歩「立会川の歴史を辿って」(主催:城南地域会(城南・風景まちづくりクラブ))
    - ・高崎まちあるき(主催:群馬地域会(後援:日本建築学会群馬支部、群馬建築士会、群馬県建築士事務所協会、NPO 景観建築研究機構))
    - ・見学会「設計事務所でのBIM利用+FMの取組」(主催:情報開発部会)
    - ・中野 まち歩き「実践学園 自由学習部 設計」NASCA(古谷誠章)の見学(主催:中野地域会)
    - ・「日光再発見」~二社一寺以外の日光~(主催:栃木地域会)
  - 相談会
    - ・建築相談会(主催:建築相談委員会)



【開催日時】2015年7月17日（金）講演 17:00-19:30/懇親会 19:30-21:00

【会場】講演：建築家会館本館1階ホール/懇親会：JIA館1階建築家クラブ

今年のアーキテツク・ガーデン(以下AG)は、1999年の開始から15年、活動範囲は21世紀の歩みと共に関東甲信越支部全域に広がりました。今年度も講演会・シンポジウムで16、展示・ワークショップで3、街歩き・見学会で6と多くのイベントが各地で開催されました。去る6月12日には、AGキックオフセミナーとして、JIA 新人賞2014 受賞者によるトークイベント「JIA これから まちと建築」が開催されました。

原田真宏氏、原田麻魚氏(MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO)と永山祐子氏(有限会社永山祐子建築設計)の3氏をお迎えし、各々の受賞作品ShoreHouseと豊島橋尾館についてお話をいただき、その後、新会員や参加者を迎えるディスカッションが行われました。

#### ■ 基調講演「受賞作品を語る+建築から街へ」

7月17日、台風上陸との予報の影響も無く59名の参加者があり、会場はとても和やかな雰囲気の中でアーキテツクガーデンメインセミナーが開催されました。今年のテーマは「受賞作品を語る+建築から街へ」と題し、JIA建築大賞2014 受賞者工藤和美氏、堀場弘氏(シーラカンSK&H) 両氏をモデレーターに、JIA 新人賞2013 受賞者である長田直之氏(ICU 一級建築士事務所)、矢板久明氏、矢板直子氏(矢板建築設計研究所)3氏を講演者に迎え、受賞作品の解説後、テーマについてディスカッションを行うという企画でした。

#### ■ 作品の解説を終えて

これらは皆、共通に示唆的であると感じました。山鹿小学校では『学びの街道』が当たり前のように使われ、『YO』では『3度』の変化が生む『ここそこあそこ』空間、『PATIO』では塀を用いずプライバシーを確保した無窓壁が与える威圧感を抑えた街並みと図られた調和、それぞれの考え方とそこから導かれた造形・空間が予定調和のような形態に昇華してそれが建築の個性となっています。その理由は敷地固有の価値を見出し、そこに潜むオーダーを発見することで発明にも似た建築を導き出しているからであり、それら建築の特徴はある種の素直さ故、示唆的な印象を与えているのではないのでしょうか。

#### ■ 「建築から街へ」パネルディスカッション

「住宅から都市スケールまで幅広い話がありましたが、そこから今回のテーマ『建築から街へ』について進めて行きましょう」という工藤氏からの投げかけを受けて、長田氏から「アグリーメントがどう生まれるのかがポイントである」という発言があり、矢板氏からは、「生活者の視点がとても大事で、住民目線から街への愛着が建築に現れたときに多くのアグリーメントが生まれる」との意見が交わされました。都市に道を通すことはとても大変な事で、山鹿小のように建築であるが故に道をつくる事ができた訳ですが、建築が大きいほど街に与える影響は大きく、だからこそ得なければならぬアグリーメントも大きくなるのだと、そして土地固有の潜在的な価値にこそ新しいアグリーメントが生まれるのだと感じました。

#### ■ 新国立競技場問題について

最後に、今回のテーマ『建築から街へ』に照らし合わせ新国立競技場の問題をどう考えるのかという会場からの質問がありました。「そもそもプログラミングに問題があり発注者が不在であった」「事業全体の8割を占める事業構想がこれまでの議論できちんとされたのか」「誰がどう設計するかは後の2割の事」「設計ではなくそれ以前に問題がある」「国や党の政策なら大丈夫ではなく民衆や専門家が関わる事が大切」「日本はこれまで決定したら突き進むという風潮だったがこれからはあらかじめ途中で見直すというプロセスを組み入れておく必要がある」等々の回答がありました。共通の意見としては、現段階の設計云々ではなくそれ以前に問題があるというものでした。計画見直しという政府決定がされましたが、これは大きな民意が突き動かした証しであり、この事がいい教訓になればいいと締めくくられました。そして「ダメで良かったね」ではなく、この事は我々に課せられた問題でもあると認識させられた次第です。

テーマ『受賞作品を語る+建築から街へ』のメインセミナーは、3度のずれから総合設計、そして新国立競技場についてと、詳細から広範囲にわたり土地と建築と街の関係性について、有意義な意見交換が行われたことをここに報告いたします。



基調講演 会場



講演者 左から、矢板建築設計研究所 矢板久明氏、矢板直子氏/ICU 一級建築士事務所 長田直之氏/シーラカンSK&H 堀場弘氏、工藤和美氏



懇親会

日時： 2015年6月12日(金) 15:00～20:30

場所： JIA館1階建築家クラブ

「新会員の集い」は入会3年目までの新会員を対象としたJIA活動のオリエンテーション企画です。今年例年行っているJIA会長、関東甲信越支部長等によるガイダンス及び新会員の自己紹介を第一部、金曜の会によるJIA新人賞受賞者シンポジウムと懇親会への参加を第二部とした、二部構成での開催となりました。

第一部のガイダンスでは芦原会長より公益社団法人としてのJIAの意義から登録建築家制度の将来像まで幅広く説明いただき、上浪支部長からは近年の東京三会の取り組みと成果についても紹介がありました。また建築家会館戸田支配人からケンバイ保険に関する詳しい案内をいただく等、新会員にとって充実した内容となりました。第二部では昨年、JIA新人賞を受賞された原田真宏・原田麻魚さん、永山祐子さんの講演を聞き、また懇親会で直接お話することで、出席した新会員の皆さまも大いに刺激を受けられたかと思えます。「新会員の集い」の参加によりJIA全国大会への参加費の助成も得られます。次回はさらに多くの新会員の参加をお待ちしています。

#### プログラム

(第一部) 15:00～17:45

主催者挨拶(左知子支部総務委員長)

JIAの概要及びこれからについて(芦原太郎JIA会長)

建築家憲章、倫理規定等について(上浪寛支部長)

ケンバイの概要と意義について (興尉JIAケンバイWG主査、  
戸田幸生建築家会館支配人)

各委員会、部会紹介(支部総務委員会)

JIA建築家大会助成金について

新会員自己紹介

(第二部) 18:00～20:30

JIA新人賞受賞者シンポジウム及び懇親会

#### 参加人数

新会員：6名

ゲスト新会員：2名(東北支部より)

会長、支部長、建築家会館支配人

支部総務委員他、8名





日時： 2015年5月23日(土)～6月6日(土)2週間

場所： 新宿西口プロムナードギャラリー

参加者： 出展「ミケランジェロ会」会員14名 見学：新宿駅西口広場を通る方々

#### プログラム概要

新宿駅西口を通る多くの方々が目にできる場所が「新宿西口プロムナードギャラリー」です。ここは「公益財団法人東京都道路整備保全公社」が管理するアート作品の展示スペースです。

多くの美術愛好グループが展示の希望を出し、抽選で展示の機会を得ています。

「ミケランジェロ会」も毎年希望し無事機会を得てきました。

ここにJIA関東甲信越支部部会の「ミケランジェロ会」が絵画(水彩、油彩)、写真、書等の展示を行い、建築家協会をアピールしました。

今年は14会員が43作品を展示しました。風景画が最も多く、ついで人物画などが出品されました。

「ミケランジェロ会」では毎年春、秋にスケッチ会をしていますが、その成果も出されました。

昨年秋のスケッチ会では世田谷区の砧公園とそこにある世田谷美術館(設計：内井昭蔵)を訪ねてスケッチを行い、その作品が出されました。

今年の春には代官山の旧朝倉家住宅やヒルサイドテラス(設計：槇文彦)などを題材にしてスケッチしました。代官山では昼に「ミケランジェロ」という当会と同名のカフェの中庭で談笑しました。



高崎の都市アイデンティティーを探る「街歩き」を6月20日に開催した。高崎の歴史を語り継ぐ堤克政氏をガイド講師に、中山道に沿って歴史・文化を伝える建築を巡った。

江戸時代の古地図を見ながら歩くと、高崎城の築城と共に今の街の骨格が形成されたのが良くわかる。以前は水路と二間幅の道がセットであり、合計幅は4.5m程度。拡幅されず残っている街路スケールは歩いてみると心地好い。国登録有形文化財の豊田屋旅館からスタートし、商家の金澤米穀店などを訪ねた。

高崎初の本格鉄筋コンクリート造と言われている聖オーガスチン教会は小屋組をシザーストラスで組んだ美しい空間である。

茶舗の水村園は奥行き深い商家で、正面の店舗は道路拡幅で改築されたが、裏には江戸から明治時代にかけて建てられた土蔵蔵や大正時代のレンガ蔵など歴史的建築物群があり、時代の流れと共に材料の選定の多様さが面白い。

その他、明治～昭和初期に建てられた建築を中心に視察した。現存する建築は少なくなっているが、そのオーナーが大切に手を加えながら使い続け、文化を伝えてくれている。これからの街そして建築を創造するうえでも貴重な体験となった。



「豊田屋旅館前にて堤さんの解説を聴く」



「高崎聖オーガスチン教会内部での集合写真」



日時: 2015年6月19日 午後6時半~9時

場所: JIA館1階 建築家倶楽部

講演者: 写真家 中川道夫

対談: 兼松紘一郎

写真家中川道夫さんは 1969年日本の学生友好訪中団の一員として文化大革命期の上海に入り、紅衛兵の歓迎を受けるなど体験を経て、その後の上海の変化を40年間にわたって取材を続けてきました。それは、一つの事に一途に向かってゆく「人民」が普通の「大衆」に変化してゆく様を「都市」は露骨に表現していたとします。その後も変貌する歴史的都市を取材し、アレクサンドリアでは、地上は西洋の面影、地下は古代の歴史を髣髴させる幻想的シーンに巡り合い、北アイルランドのベルファストやデリーではカトリックとプロテスタントの紛争跡が観光資源になっているシーン、台湾では日本統治下の建物が、歴史的資産として受け入れられ、むしろ旧日本家屋がカフェや店舗として人気を博す、イーストロンドンでは移民の町がロンドンオリンピックで様変わりしてゆく風景にスポットをあてます。

120枚に及ぶスライドと写真パネルにての表現、そして兼松紘一郎氏との対談も交え、時に写真機材にも話が及びました。

前日の申し込みは20数名でしたがふたを開けてみると41名。

次回は中川氏と横浜の街歩きをしながら、「歴史のベールをはぎ取ってゆく」写真撮影会を企画します。



「当日の対談風景」



「中川氏使用のライカ」

【開催日】2015年6月27日（土）

【場 所】JIA館1階建築家クラブ

港地域会では恒例になった街並に関する市民向けセミナーをアークツガーデンの日程に合わせておこなう事と成った。

サブテーマとして『街と建築を海外と日本から考える』と題し、パネリストの我々建築家に劣らない会場からの活発な意見交換がみられた。

参加者も小中学生から高齢のかたまで幅広く、海外に何らかのかたちで在住された方々のお話など興味深く、活発な発言が数多くみられ

参加者(市民)と建築家が一体となったセミナーの充実感を味わう事が出来た。

セミナーは二時間足らずであるがその後の懇親会(ワンコインパーティー)もセミナーの第二部といってよく、ここでは自然と三々五々、自由に

相手をつかまえて、談笑する参加者と建築家のほのぼのとした姿が観られ、こういった風景の萌芽こそ将来の日本の街並を本物にしてゆく

ものだと感じた。





日時 : 2015年7月3日(金) 16:30~18:00  
会場 : 株式会社 安井建築設計事務所 東京事務所 (東京都千代田区平河町1-3-14)

講師 : 繁戸和幸氏 株式会社 安井建築設計事務所 情報・プレゼンテーション部長  
参加者 : 17名(講師除く)(会員7名、一般10名)

### プログラム概要

安井建築設計事務所では2007年から本格的にBIMを取り入れ、現在は事務所全体でBIMを利用しています。見学会では、国土交通省のBIM導入プロジェクト「前橋地方合同庁舎」を事例としてご説明頂きました。

BIMの用途としては、基本計画、基本設計、実施設計のデザイン検討・設計図書作成で利用され、環境解析(風環境・温熱環境)、干渉チェック、数量拾い等にも利活用されていました。特に基本設計段階の検討や解析、シミュレーション、一般図作成を中心に活用されているそうです。

意匠、構造、設備でそれぞれで作成したモデルを定期的に統合して干渉チェック、その他の検討をするそうです。

### 利用ソフト

- ・意匠 : Revit、
- ・構造 : Tekla Structures、
- ・設備 : CADWe' II Tfas)

最近の事例として、設計だけでなく、民間オフィスビルの維持管理フェーズ(FM)でのBIM利用の試みも紹介していただきました。

BIMに対する関心が高まってきているためか、定員を上回る申込、参加がありました。早くから実務へのBIMの導入にチャレンジし、継続し、成果を出し、次のステップへの課題も見出している、先進的でありながら同時に現実的な事例を実際に見学することができました。質疑応答の時間も頂戴し、盛況な見学会となりました。

(BIM: Building Information Modeling FM: Facility Management)



■開催概要

日時：2015年7月4日（土曜日）18：00～21：00 会場：建築家クラブ  
参加者：64名

■プログラム（以下敬称略）

新潟県十日町市・津南町で開催される世界最大級のアートイベント「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015」の会期直前、総合ディレクターである北川フラム、そして参画する建築家4名（豊田恒行、日置拓人、山岸綾、山本想太郎）が登壇するトークイベント。

■「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」とは

新潟県十日町市・津南町を舞台として、2000年より、3年に一度開催されている現代アートの国際イベント。展示エリアの大きさは世界最大級であり、国際的に活躍する国内外の著名アーティストが参加する。数多くの建築家も参加している。（<http://www.echigo-tsumari.jp/>）  
2015年の芸術祭（7月26日～9月13日）では、地域の過疎化により廃校となった小中学校の校舎を、アーティストや建築家、そして地域の人々の協働によって、地域の核として再生させていくという「廃校プロジェクト」が主要企画となっている。

■トーク概要

<第一部>

- ・北川フラムによる、現代アートによって地域と自然、そして世界をつないでいくという「大地の芸術祭」のコンセプトと、これまでの成果、そして本年の展示概要についてのプレゼンテーション
- ・各建築家による、各「廃校プロジェクト」についてのプレゼンテーション

<第二部>

全登壇者によるトークセッション。  
総合ディレクター、各建築家のそれぞれの立場から、ここで生み出されている地域の大きな変化と、そこに参画する建築家がどのような役割を果たすべきかという意見が語られた。  
地域・社会が「建築家」に求めるもの、それに対して実際に建築家がどのように応えることができるか（応えるべきか）、アートと建築の関係、など多くの考えるべきテーマが提示された。これらに明確な結論がでたわけではもちろんないが、その思考基盤として「大地の芸術祭」、そして「廃校プロジェクト」の持つ意味は大きい、という思いは共有されたと感じられた。

（文責：デザイン部会長 山本想太郎）



左より、日置拓人、山岸綾、豊田恒行（敬称略）



左より、山本想太郎、北川フラム（敬称略）



会場風景



日時：2015年7月18日(土) 9:00～16:30  
場所：栃木県日光市内

参加者：一般参加者(26名) 学生(4名) JIA会員(7名) ゲスト(講師、解説者)3名・・・合計40名

### プログラム概要

世界遺産登録後、訪れる国内外からの観光客は後を絶たない日光において本見学会は注目の二社一寺を除いた豊富な近代遺産の一端を巡る街歩きのプログラムである。

朝、宇都宮駅に集合しバスで一路日光へ向かった。  
まず最初の見学は、明治・大正の面影をそのまま残し、今も日光の玄関口として親しまれている白亜の洋館「JR日光駅」である。木造2階建てのネオ・ルネッサンス様式であり、特別に見学した貴賓室はその気品を目の当たりにした。

次に、整備の進む街並みを見学後、「日光市日光総合支所」「金谷侍屋敷」の見学である。  
保存のため整備された「日光侍屋敷」は金谷ホテルの前身でもあり端正な和風の建物であるもののスキップフロアと和風の空間構成は当時の外国人向けの宿泊施設として魅力的なものである。

昼食後、日光の近代史と深い関係のある石造りの「日光真光教会」である。  
牧師さんの講話を伺いながら眺めた聖堂内のアーチ状木造小屋組みは興味深いものであった。

次に地域の暮らしを支え続けている用水システムの残る(仮称)「石升の道」  
日本で3番目の水力発電所で現在も稼働している「日光第二発電所」  
などの盛りだくさんの見学である。

今、日光は多くの近代遺産を活かしつつ官民一体となって、この地ならではの「まちづくり」を進めている。二社一寺以外にはなかなか眼のとどきにくい貴重な近代遺産は文字通り日光の歴史を刻むものであり、その魅力を目の当たりにし行政や市民の大切にする姿勢には敬意をも覚えた。  
参加者各位の会話も弾み、正に「日光再発見」する有意義な見学会となった。  
来年の開催も期待されつつ解散となった。

